

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：特別養護老人ホーム 恒春ノ郷	種別：特別養護老人ホーム	
代表者氏名：日森 昭子	定員（利用人数）：112名	
所在地：神奈川県横浜市泉区西が岡1-30-1		
TEL：045-813-0008		
ホームページ： https://www.shinzen-fukushi.jp/kousyunnosato/?lang=jp		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1990年（平成2年）9月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 親善福祉協会		
職員数	常勤職員：61名 非常勤職員：50名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	社会福祉士：1名	管理栄養士：1名
	理学療法士：1名	看護師：6名(内准看護師：1名)
	認知症認定看護師：1名	介護支援専門員：12名(内生活相談員：4名)
施設・設備の概要	（居室数） 38室：4人部屋26室、3人部屋2室、2人部屋3室、1人部屋7室	
	（設備等） 1F：ホール(リハビリ訓練室)、食堂、ボランティア室、仏間、会議室、研修室2室、事務室 2F：居室38室、食堂、静養室、理容室、医務室、浴室	

③理念・基本方針

<法人理念>

医療と介護で安らぎのある街を目指す。

<施設理念>

多年にわたり社会に貢献してこられた利用者を敬愛し、その生命が安全に守られ、安心して生活できるよう運営する。

<運営方針>

利用者の人格を尊重し心身の健康保持を大切に考え、栄養マネジメント・機能訓練を行い、利用者個々の介護サービス計画に基づいたサービスの提供を行います。緊急時、やむを得ない場合を除き原則として身体拘束は行いません。

職員一人ひとりには自分の意見や発言、行動に責任を持ち、話し合いのルールを確立し、民主的な運営をします。施設の専門的機能を活かしながら地域社会の中で老人福祉に取り組んでいきます。

④施設・事業所の特徴的な取組

常勤の医師が配置され、年間退去者の95%以上は施設における看取りが実践されています。認知症看護認定看護師が所属しており、認知症棟を設け認知症介護を含めた介護サービスの質の向上に努め、認知症強化型施設を目指しています。施設の所在する泉区に根差し29年事業を行っており、同法人の病院の後方支援体制が確立され、医療連携が行われています。

2009年に給食課は厚生労働大臣賞を受賞、2018年には「かながわ認証」、「かながわベストセレクト20」「熱中症予防声かけプロジェクト」に賛同し、「ひと涼みアワード2018、2019」熱中症部門優良賞等を受賞しています。

人材育成にも力を入れており、施設職員のみでなく、実習生(横浜市新採用職員、介護福祉士養成校、社会福祉士養成大学、看護師養成校等)を多く受け入れて次世代育成を行っています。2015年に横浜市喀痰吸引等研修登録機関として認可を受け年間2回、指導看護師養成研修と共に継続しています。施設において、夜勤帯職員の内、最低1人は認定特定業務従事者を配置し入所者のケアを実践しています。

防災訓練や地域活動の支援、ボランティアの受け入れ等を通して地域貢献にも力を入れています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元年7月25日(契約日) ~ 令和2年3月6日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	一回(年度)

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)自然で穏やかに、尊厳を支える看取りにチームで取り組んでいます

日々の生活の中に満足度の高いケアの提供を基本姿勢とし、看取りは利用者、家族との強い信頼関係を作り、生活の延長線上での看取りを位置付けています。利用者の尊厳を支える看取りを大切に、医師、家族、多職種の職員がチームで支援しています。

QOD(クオリティオブデス)に沿った穏やかで安らかな日々を過ごせるように精神的面でのケア(緩和ケア)を中心に看取り介護を行っています。利用者を一人にしない、寄り添って語りかけるケアの心で接しています。また家族が看取りを受容できるよう、お別れの時に向けて身体の状態変化や食事の衰えなどパンフレットで説明しています。

看取り後のグリーフケア(遺族の喪失の精神的フォロー)を行っています。職員は振り返りカンファレンスを行い、看取ったの思いを話し合っています。霊安室で職員や親しい仲間とお別れや毎年の盆供養の開催で遺族と一緒に思い出を語り合える機会を持っています。

退所者の95%が看取りにつながっており、「かながわベスト介護セレクト20」で表彰されています。「みずから望む最期を迎えるために」のテーマで受賞記念講演会を開催し、自然で穏やかな死についての理解を求めています。

2) 認知症看護認定看護師を中心に連携し、認知症者のケアの質の向上に取り組んでいます

増加している認知症利用者を積極的に受け入れる施設を目指しています。認知症看護認定看護師は認知症ケア相談システムを活用し、多職種と連携し認知症利用者のケアに取り組んでいます。認定看護師を講師に研修を年2回実施し、看護師、介護士、生活相談員が参加し、日常生活ケアの質の向上に努めています。職員からアンケートで質の向上に繋がったとの意見も確認されています。

認知症の困難対応事例でケアの成功事例を共有し、より良い適切なケア支援に取り組んでいます。認知症利用者の外出レクリエーションを積極的に行い、買い物等楽しんでもらうと共に地域住民にも認知症者を理解してもらえよう図っています。

関連施設での認知症講座や研修会も開催予定で、認知症者を地域で支える取り組みもしています。施設では認知症の専門棟を設けフロア内や居室内を安全でゆったり、落ち着いて過ごせるように環境整備を図っています。「職員への認知症者への理解と対応の向上について」の発表で「かながわベスト介護セレクト20」に選出され表彰をされました。施設の中長期計画「認知症に特化した施設を目指す」の3年目として認知症看護認定看護師を中心に更なる継続した取り組みを行っています。

3) 地域に根ざした施設運営を行っています

施設で行う避難訓練に地域住民も招き、地域の防災訓練には職員が参加する等緊急時の協力連携体制を構築しています。給食部では泉区社協や地域の民生委員の行う年2回の食事会に食事の提供を行っています。地域ケアプラザと連携し、ドライバーが地域に住む高齢者の移動支援等も実施しています。

認知症看護認定看護師を地域に派遣し、認知症についての講座を開催したり相談支援も行っています。また、地域住民やかながわ障害者職業センターと連携し、障害者を雇用をする等地域に職の提供も行っています。

ボランティアも現在80名の登録があり、定期的に交流会を開催しています。近隣の小中学生ボランティアを施設の清掃として受け入れたり、中学生の職業体験をデイサービスにて受け入れる等も実施して地域交流に努めています。

◇改善を求められる点

1) 一人ひとりがサービスの質の向上に向けた取り組み方や周知徹底

サービスの質の向上に向けさまざま取り組みが実施されています。職員には様々な施設内や外部研修の参加や職員倫理規程の資料を配布し、より適切な利用者への支援を行っています。さらに看取りや家族支援までを含めた介護技術等を学び業務に取り組めるよう図っています。施設における様々な取り組みに対し表彰や受賞につながっています。

職員への調査では、施設として行う取り組みの意図や目的が全職員に周知がしきれていない様子が見受けられます。取り組みについての周知方法や、職員の理解状況の確認方法などを検討して、施設全体として利用者に向けた良い支援が実施ができるように期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

これまでの30年間 従来型の特別養護老人ホームとしての歴史の中で、理念に基づき寝たきりにしない離床への取り組みや身体拘束ゼロを全職員で取り組んでおります。

最期まで口から食べることを大切にし、常勤医師を中心に穏やかな生活の延長線上の看取りにも積極的に取り組んでまいりました。

今回、更なる福祉サービスの質の向上に繋げるべく、神奈川県においても初めて統一された評価基準のもとで第三者評価を受審し 日々の実践と努力の中で実りある成果として確認できた取り組みもありましたが、問題点や課題も明確となりました。

全職種・職員で参加し、取り組めた経緯をふまえ、これからも職員で分かち合い、課題に向け取り組んで参ります。選ばれる施設を目指したいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり